5-2 平成24年度第2回「関西のブランド力向上推進有識者委員会」議事録(25年3月21日)

■■ 議 事 次 第 ■■

日時：平成25 年3月21 日（木） 16:00～17:15

場所：大阪合同庁舎四号館2F第2共用会議室

議事次第：

1.開会

2.主催者挨拶

3.座長挨拶

4.議事

(1)「はなやか関西～文化首都年～2012 人形浄瑠璃」事業の検証報告（中間報告）について

(2)「はなやか関西～文化首都年～2013 関西の食文化」の取組および展開について

①2013「関西の食文化」の概要

②応募状況報告

③2013「関西の食文化」の進め方

(3) その他

5. 閉会

■■ 議 事 要 旨 ■■

1. 開会

2. 主催者挨拶　　山田俊哉　近畿地方整備局建政部長

・今年度は徳島県のみなさまをはじめ、多くの団体･機関にお世話になった。
・人形浄瑠璃を各方面に発信できた。
・この委員会では忌憚のない意見をいただきたい。5 月中に最終報告をまとめる予定。

3. 座長挨拶　　橋爪紳也　大阪府立大学特別教授

・挨拶を割愛して議事に進む。

4. 議事

(1)「はなやか関西～文化首都年～2012 人形浄瑠璃」事業の検証報告（中間報告）について

事務局

・「はなやか関西～文化首都年～2012 人形浄瑠璃」事業の最終報告は 5 月目処にまとめる。
・有効性の検証としては、a)「はなやか関西～文化首都年～」および取組参加団体の活動の認知度向上、b)地域振興･経済波及効果、c)インバウンド効果の 3 つのテーマで効果を検証し、課題を抽出した。
a)では一定の効果があったと考えている。しかし「はなやか関西」そのものの認知度が低い。来年度から「はなやか関西」のプロモーションを工夫しなければならない。
b)では一定の成果があった。学生を活用したイベント等を検討して、今後も繋がりを維持・拡大していきたい。留学生モニターツアーは好評だった。
c)では取組の拡大が必要であると考えている。
・来年度以降はアドバイザー等の拡充により広報を強化して認知度向上を図る。Facebook も継続する。また、民間の観光団体等にも協力を求めてプロモーションを強化したい。
・現在、取組参加団体に応募してもらうよう各種団体等に働きかけている。
・人形浄瑠璃については、2012 年度の継続として、人形浄瑠璃街道連絡協議をはじめ今年度に形成されたネットワークを活用して、継続してもらえるようにしたい。

河内委員

・ツアーは参加者が少なかったのは仕方がない。
・いちばんの成果は学生を巻き込めたことだ。彼らに問題意識を持ってもらえた。
・徳島県など非常にやる気のある自治体があってよかった。次年度もこういう自治体が出るとよい。

千田委員

・今年度の事業の詳細はよく知らないが、熱心にやっていたにも拘わらずメディアに取り上げられていない。「はなやか関西」について関西全体で調べたら多分 9 割が知らないだろう。今後、関西全体に発信するようやってほしい。

堀井委員

・一年の取組としてどういう成果が残ったのか、取組団体として参加した地域に何が残ったのかという視点が重要だ。

・取組団体や地域に何か足跡が残り、足跡がスタートになって地域が活性化するのが望ましい。「はなやか関西」に参加した地域が「はなやか関西」に参加したことを誇りに思って語り草になるようなことを残してやればよいと思う。例えば、経済産業省の近代化遺産はプレートを渡している。高価なものではないので、そのような仕掛けも必要ではないか。

村田委員

・関経連では人形浄瑠璃の公演会等を行ったが、自治体をはじめみんなを巻き込む仕組みをつくるなど、もっと知恵を使うべき。

橋爪委員

・事前にアウトカムの資料をつくれば、事後に事業が達成したか否かがわかる。そして PDCA サイクルの形にしていくべき。

・事業の中心となって活動した自治体に何か渡せるようなことができれば、欧州の文化首都と同様になろう。今後、考えるべき点だ。

・「はなやか関西」に参加したことによって、参加した地域に何が生まれたかが、重要。フランスのリールでは 2 年おきに「リール 3000」というアートビエンナーレをするようになった。3000 年まで続けようという意志を込めた名称だ。このように、ビフォア・アフターが重要だ。
例えば、急に若い人が来るようになったとか、連携組織ができたとか、広域ネットワークが自立的に生まれたなど…。とくに広域ネットワークが形成されるのがいちばん望ましく、企業資金を得てやっていくぐらいの組織を生むようなプログラムも考えられる。とにかく、「一過性」から「継続」へと移っていく仕組みが大切だ。

事務局

・「はなやか関西」事業の評価について改善していきたい。

・「はなやか関西」自体の認知度が低いのは課題だと思っている。

・各年度の事業の一過性についてだが、茶の文化については、今年度有志で何かできないかという動きが発生し、我々も少し手伝っている。今年度の人形浄瑠璃については、人形浄瑠璃街道連絡協議会に引き継ぎ、我々もサポートしていきたいと考えている。

・「はなやか関西」で行ったことによって来年以降に○○になる・・・という視点からも、「はなやか関西」そのものの PR をする必要があると考えている。

(2)「はなやか関西～文化首都年～2013 関西の食文化」の取組および展開について

①2013「関西の食文化」の概要説明

事務局

・このテーマは、日本食文化の源泉として関西を PR することである。関西に起源のある食文化の中

から、各年代の代表的料理･習俗変化等、昆布出汁文化、発酵文化、小麦粉文化、酒の5つのジャンルを設定した。これらについての歴史紹介と活動団体のPRをしていく。
・実行委員長候補者は石毛直道先生で、アドバイザーとして伝承料理研究家の奥村彪生先生、観光分野から尾家建生先生、情報発信の分野から高田公理先生を考えている。

河内委員
・「あまから手帳」の編集長はどうか？

橋爪委員
・委員長もアドバイザーも専門性が高い先生方だが、50歳代の人や女性を入れるべき。学識経験者といっても民間の専門家もいるのだから、考えてはどうか？また。経済団体からアドバイスをもらえるようにしてもよいと思う。
・国酒プロジェクトもあるが、どうか。

坂上委員
・橋爪委員と同意見だ。
・関西には食品関係の企業が多くあるので、その方々も入れてはどうか？

河内委員
・奥村先生は研究熱心で奥が深く、すごくよい。「あまから手帳」の門上武司編集長はたんなるグルメでなく研究もしている。彼を巻き込んだら何かやってくれると期待できるのではないか。

②応募状況報告
事務局
・まだ応募が十分ではない。
・御食国（みけつくに…淡路、若狭、志摩）も選びたいと考えており、現在応募してきたのは兵庫県。ほかにも働きかけたい。
・昆布出汁文化の取組参加団体の応募がまだないので、働きかけているところだ。

千田委員
・食文化とはできあがった料理のことになるが、食材をどのように得ているのかという根源的テーマについては従来取り組まれていないので、食材の源泉を考えるべき。

堀井委員
・お菓子がない。参考情報だが、経済産業局が動いている。「探してこい」と命じられた田道間守命（タジマノカミ）が持ち帰ったのが、みかんの元。経済産業局がそれについてビデオをつくると、わが家に取材に来た。大和郡山の老舗「菊屋」も巻き込んでプロモーションを進めるとも聞いた。そうめんプロジェクトは自分も相談を受けている。
・「はなやか関西」は国土交通省の事業なのだから、その権威をうまく使えばよい。例えばNPOの

人々は「国が認めたものだ」ということでやる気をだす。国交省から認められたということで現場の人々は喜んでくれ、活動の励みになることもよくある。

事務局

・いまのところ参加団体は「はなやか関西」のロゴマークが使用できる程度だ。プラス効果があるなら、ぜひ検討する。

橋爪委員

・「大阪ミュージアム構想」は登録団体が 1000 以上。登録した賞状を押しピンで壁に貼ったり額に入れて飾っていたりと、受け取った団体の思い（有り難み）はまちまちだが、ぜひ検討していただきたい。

村田委員

・応募状況を見ると、京都府から応募が一件もない。鯖街道、昆布出汁、鰹出汁のキーである京都はどうなのか？

・いま、和食のユネスコ登録に向けたプレゼンテーションががんばって進められている。その運動と連携するのはどうか？

坂上委員

・コア事業のイメージは？

事務局

・京都にはいま働きかけているところだ。

・コア事業として、食文化のフォーラムを開催するつもりだ。

・応募のあった取組をコア事業にすることは考えていない。

坂上委員

・いままでのテーマと食文化とは違うと思う。今までは絞り込みやすかったが、食文化は多くの人が出てくる可能性があるので、絞り込んで焦点がぼけることのないようにすべき。編集プロデュースのできる専門的役割をする人が必要だと思う。

橋爪委員

・和食がユネスコ登録されたら、「われわれ関西の食文化こそ和食の食文化だ」と言えるようにしたい。通らなかった場合も、きっちり打ち出すようにすべき。

③2013「関西の食文化」の進め方

事務局

・来年度テーマを進めるうえで、認知度向上、地域振興、インバウンド観光に加えて、学生の参加促進を方針とした。

・本事業の広報を協力してくれる団体を探していきたい。
・ツアーを手厚くしたい。
・ツアー企画や魅力発信のプレゼンテーション等で学生参加を促進したい。
・インバウンドは関経連の協力、関西国際観光 Year とも連携し、留学生ツアーも行いたい。

千田委員
・コア事業がないのは、目玉をつくりづらいからだろう。
・古代から中世という時間軸と、地域性という空間軸をあわせて考えていただきたい。
・例えば○月は「○○県の食文化月間」などとしてもよい。
・卑弥呼の食卓、長屋王の食卓などは石毛先生や高田先生は興味ないと思うが、うまくやってほしい。

河内委員
・食文化は府県というエリアで分けづらい部分がある。海産加工物をつくる商店や企業は西淀川と尼崎の境に多くあるなどが例だ。エリア分けについてもしっかり検討していただきたい。

橋爪委員
・消費地では至るところでバルをやっている。バルとははしご酒のようなこと。産地と消費の両方を視野に入れて行うのが、われわれ「はなやか関西」の特徴だ。

閉会